

おりたぼり、冬ぬ^{うきな}沖繩

竹富町立波照間小学校

6年生 本比田 一郎

ぼくが住んでいる波照間島には、年間約四万人の観光客が来ます。波照間島には、日本一美しいビーチに選ばれた事があるニシ浜があり、夏はクマノミやウミガメをめあてに、一ヶ月に五千人以上の観光客がやってきます。

しかし、冬になると観光客は一ヶ月に千人程度に減ってしまいます。どうしてだと思いませんか。冬の沖繩は北風がビュービュー吹き、海も荒れます。石垣から波照間への船はゆれやすいので、島に着く前に船酔いでグッタリしてしまいます。やっとの思いで着いたあこがれの島なのに、エメラルドグリーンの海はなく、どんよりとした空が広がっています。一年中夏だと思って来たのに、寒くて海に入れません。「冬の沖繩はつまらない。」とがっかりして帰る観光客もいることでしょう。そこで、冬の沖繩を楽しむ方法を考えました。

波照間島は、さとうきび作りがさかんです。冬の十二月から三月が収穫時期で、キビ刈りが始まると島の農家はとてもいそがしくなります。ぼくの家も農家ですが、人手不足の為に日本全国から援農隊を募集しています。

そこで、キビ刈り体験ツアーを提案します。キビ刈りは大変と思われそうですが、小学生のぼくでも手伝っています。

「ムーヌツィクーウリシューラバ、ムーリカブーシミーアテシ。」

これは、農作業をしながら歌われていた「ユンタ」です。今では歌える人が減ってしまいましたが、おじいおばあから教わって歌いながらの作業を復活させたいです。観光客にとっても都会ではできない体験になるでしょう。ねこの手も借りたい農家と冬の沖繩を楽しみたい観光客どちらにとっても Win-Win なのではないでしょうか。

夜の過ごし方も大切です。ぜひ農家に泊まって、島でとれた魚や野菜を食べ、島の暮らしを体験してもらいたいと思います。三線や踊りで盛り上がったり、教えてもらったり、することもできます。それをきっかけに、食べ物や芸能など、新たな沖繩の魅力を知ってもらいたいです。

これは一つの例で、沖繩にはまだまだ沢山の宝物があります。冬に沖繩に来たらゆっくり家に泊まって新たな宝物を見つけてほしいと思います。

おりたぼり、冬ぬ沖繩。